



## ◆ 新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

本年が会員の皆様にとって明るく希望に溢れる1年となりますようにお祈りしております。この数年の、教育環境の変化は著しく、2023年もその変化は続いていきます。教育動向のキーワードとしても「教育DX」「個別最適な学び」「生徒指導提要改訂」「メタバース」「子どもの貧困」「教員不足」と多種多様の言葉が踊ります。

教育に携わるものとして、その本質を見極めることは当然として、これまでの常識を疑い、「マインドチェンジ」を進めていくことも同時に必要でないかと思えます。日本デジタル教科書学会といたしましても、さまざまな事業を通しまして、会員の皆様に最新の動向をお伝えしていくことと同時に、教育に対して多面的に捉え直す機会を提供していきたいと考えております。

また、本学会名にもある「デジタル教科書」について、本年も文部科学省の実証事業を中心に、全国の初等中等教育で活用が進んでいくことと思えます。前回京都で行いました年次大会（2022年8月開催）でも、デジタル教科書に関するご発表をたくさんいただきました。本学会で発表されているデジタル教科書に関する実践や研究の内容は、各学校で具体的なデジタル教科書を活用していく上で役立つものと考えます。本年も年次大会等における積極的な発表をお願いしたいと考えています。

学会として、デジタル教科書に関する研究会を開催したり、後援したりすることも進めていきます。そしてこれからも、研究プロジェクト・研究グループへの研究費補助や、会員の主体的な研究会開催を支援する研究会開催助成の制度を、皆様の研究活動のためにぜひ活用してください。本学会の論文誌「デジタル教科書研究」への投稿も期待します。採択された論文等は、J-STAGEにも登録されます。

最後に第12回年次大会は、8月19日(土)、20日(日)に長野市で開催の予定です。大会実行委員会による準備も進められています。皆様と信州でお会いできることを楽しみにしています。本年も本学会に対する一層のご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

日本デジタル教科書学会会長 広瀬一弥

## ◆ 日本デジタル教科書学会第12回年次大会（信州大会）のご案内

教育現場では一人一台PCが当然になりました。もはや「えっ、パソコン無しでどうやって勉強するの?」というくらいの話、までにはなっていないかもしれませんが、近い未来にそのような感覚になるのではないかと予想しています。

未来予想の情報交換の機会として、あるいはよりよい未来を創るための経験やエビデンスの蓄積の場として、信州大会にご参加いただき、盛り上げていただけると嬉しいです。会場は信州大学教育学部です。最寄りの長野駅からバス+徒歩で15分くらいです。健康のために歩けば徒歩30分です。宿泊場所は長野駅周辺に多数あります。近くには「庶民の寺」として有名な善光寺がありますので、ぜひお立ち寄りください。

開催日程は、2023年8月19日（土）～20日（日）を予定しています。ほぼこの日程で確定ですが、信州大学教育学部の会場使用予定が現時点では確定できないため、最終決定はもう少しお待ちください。最新情報はツイッター「デジタル教科書学会信州大会2023」@jsdt2023で公開予定です（たった今アカウントを作りました）。今すぐフォローしてください！

今回の大会では校務ICT化の流れと同様に、今後の大会の持続可能性を高めるために、大会実行委員会の負担を極力削減して運営をスリム化します。そのため、ご参加のみなさまにお手伝いをお願いすることがあるかもしれませんが、「みんなで作る大会」という感覚でお願いしたいと思います。

ご参加、お待ちしております！

第12回大会（信州大会）実行委員長 島田英昭

## ◆ 研究会報告1：マスクールウインターセミナー2022

12月11日（日）にデジタル教科書学会の後援を受けて、マスクールウインターセミナー2022を開催した。完全オンラインで、午前・午後の2部制で行い、延べ参加人数は35名であった。

本イベントは、講座3本とワークショップ16本で行った。講座は国語、算数、コロナ対応のオンライン授業・ハイブリッド授業についての3本である。国語や算数については、それぞれ実績ある実践家の方から講座を行っていただいた。オンライン授業・ハイブリッド授業については、杉山が行った。管理職の立場で持続可能かつ高効率なオンライン授業・ハイブリッド授業について、実際の経験を踏まえて提案を行った。

ワークショップは、それぞれの発表者が自分の興味あるテーマについて、10～15分の時間で行った。テーマも教科の指導だけでなく、学級経営などバラエティ豊かな内容となった。所属も現職だけではなく、学生も何名か発表を行った。

県を超えたつながりができたり、発表未経験者も発表の経験を積んだりして、充実したイベントとなった。実践の内容でもICTやタブレットなどのデジタルが無理なく、効果的に使われ

ていて、GIGA スクールの取組が着実に進んでいて、参加者はそれを生かして、自分の取組を改善していることがうかがえるイベントとなった。

十日町市立馬場小学校 杉山一郎

## ◆ 研究会報告 2：D-project 香川 JSdT 冬セミナー

令和 5 年 1 月 8 日香川県丸亀市市民交流活動センター「マルタス」で D-project 香川 JSdT 冬セミナーを開催しました。2 つの講義と 2 つの実践発表 4 つのワークショップと充実した内容となりました。

オープニングでは、大妻女子大学特任教授・大妻中学高等学校 教諭 加藤悦雄先生（本学会理事）から講義がありました。ツールに振り回されず「情報活用能力」の育成に注力すべきであるとお話がありました。

実践発表では、坂出市立加茂小学校 河口美穂先生、北海道石狩市立双葉小学校 前多香織先生のお二人から、発表がありました。河口先生からは、国語科や委員会活動での ICT 活用やデジタルシチズンシップ教育についての紹介がありました。前多先生からは、学校での活用の実際を一斉、個別、協働学習に分けて紹介がありました。また、個別最適な学びの実現のためには、自己調整力の育成が重要であるとお話がありました。

午後からは、放送大学客員教授 佐藤幸江先生、鳥取県デジタル・シティズンシップエドゥケーター 国際大学 GLOCOM 客員研究員 今度珠美先生、大妻中学高等学校 桑原里美先生、北海道石狩市立双葉小学校 前多香織先生から、それぞれ、「新聞教材活用学びの基盤としての『情報活用能力』を高めよう！」「デジタル・シティズンシップ最新教材をいち早く体験しよう」「メタバース超入門編(PC を使った体験型 WS)」「個別適な学びと協働的な学びを実現！～GIGA 授業デザインを考えよう～」をテーマにワークショップを実施していただきました。

総括セッションでは、さとえ学園小学校 山中昭岳先生より、本セミナーを振り返り、それぞれのセッションについてコメントをいただいた後に、さとえ学園小学校での一人一台の環境での取り組みについてお話がありました。

香川では、今回で 12 回目となるセミナー、県内外から 60 名以上の方々に参加していただきました。今回のセミナーを契機に、GIGA スクール構想、一人一台端末の活用、学習者用デジタル教科書の活用がさらに進むことを期待したいと思います。

D-project 香川 増井泰弘

## ◆ 研究会報告 3：コラボ研究会（横浜メディア研究会×D-project 関東×日本デジタル教科書学会）

日時：2023年1月21日（土）12:30～16:50

会場：横浜市立神大寺小学校

「GIGA スクール構想の実現」（文部科学省 2020）のもと、「誰一人取り残すことのない公正に個別最適化され、創造性を育む学び」の実現をめざして、全国で1人1台端末の活用が始まって2年が経過する。

その間、学校教育現場はコロナ禍に見舞われ、学習指導要領の全面実施の時期とも重なり、大いに混乱し疲弊している状況が見える。また自治体や学校、教員によって活用の格差が見られるようになってきた。

そこで、3つの研究集団がコラボし、不安と混乱を超え、GIGA スクール構想のめざすところを再度共通理解することと、1人1台端末環境を生かしての地道な「授業研究」を進めることをねらいに本研究会を企画実施した。

テーマを『自律的に学ぶ学習者の育成をめざして～教科特性に合った1人1台端末を活用した授業づくり～』を設定し、基調講演に放送大学中川一史教授（右写真）をお迎えし、3つの「授業改善セッション」と5つの「模擬授業セッション」を行った。

「模擬授業セッション」においては、日本デジタル教科書の会員を講師に「国語科学習者用デジタル教科書の活用」を実施した。オンラインを含め多くの参加者があり、体験版を使いながら学習者がどのように自分の考えを整理し、対話を通してその考えを確かなものとして形成していくか、そのプロセスを体験していただいた。参加者からは、「デジタル教科書の教材部分『マイ黒板』の活用の仕方が分かって、授業で使ってみたい」「これまで読むことに抵抗感のある子にこそ、活用させたい」等々の感想が聞かれた。

意欲的な実践者や研究者と共に問題解決的に研修を実施することは、互いのアイデアや考えの交流を生み、次の授業への意欲へとつながる様子が見られた。また、新たなヒューマンネットワークが形成され、今後、継続的に研究していこうという話も窺えた。学校教育現場を取り巻く様々な人々が、関わっていくことの重要性が見えた研究会となったことをご報告する。

茨城大学 小林祐紀

## ◆ 研究プロジェクト・研究グループへの研究費助成について

日本デジタル教科書学会では、会員の研究活動を支援するために、研究プロジェクト・研究グループへの研究費助成を行っております。

会員の皆様の積極的な応募をお待ちしております。研究プロジェクトへの助成額は最大10万円、研究グループへの助成額は最大5万円です。研究プロジェクトでは本学会論文誌への投

稿と本学会年次大会における発表、研究グループでは本学会年次大会における発表を求めるなど、応募の条件があります。詳細は学会ウェブサイト ([http://js-dt.jp/research\\_support/](http://js-dt.jp/research_support/)) をご覧ください。申請は随時受け付けております。ただし、本学会の研究助成に関する年度予算額の上限に達した時点で受付を終了いたしますのでご了承ください。皆様の積極的な取り組みを期待いたします。

## ◆ 研究会開催助成について

日本デジタル教科書学会では、会員の皆様の主体的な研究会の開催支援、研究活動の活性化、研究の発展、会員相互の連携を促進すること等を目的に、研究会開催助成を行っております。申請に関する詳細は本学会ウェブサイトをご確認ください。会員の皆様の積極的な応募をお待ちしております。

(本学会サイトトップページ上部の“学会への申請一覧”の“研究会開催助成について”をご覧ください。申請書もこちらからダウンロードして頂くことができます。)

([http://js-dt.jp/seminar\\_support/](http://js-dt.jp/seminar_support/))